

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録		
招 集 期 日	令 和 6 年 1 月 1 8 日 (木)	
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室	
開 会	1 月 1 8 日 午 後 3 時 3 0 分	
閉 会	1 月 1 8 日 午 後 5 時 2 5 分	
教 育 長	戸 ヶ 崎 勤	
教 育 長 ・ 委 員 出 席 状 況	戸 ヶ 崎 勤	出 席
	仙 波 憲 一	出 席
	木 村 雅 文	出 席
	長 道 修	出 席
	浜 田 美 咲	出 席
説 明 員 (出 席 者)	川和田教育部長、梶山参事、横田次長	
	金澤教育総務課長、河西学務課長、杉森教育政策室担当課長	
	増澤学校給食課長、鎌田生涯学習課長、高屋生涯学習課課長	
書 記	教育総務課総務担当 我妻副主幹	
傍 聴 人	2 名	

会 議 の 経 過 及 び 結 果

教 育 長

令和6年最初の定例教育委員会になりました。元日には令和6年能登半島地震が発生し、2日には羽田空港で、その被災地へ物資を送ろうとしていた海上保安庁の航空機と日本航空の旅客機が衝突し炎に包まれるという前代未聞の事故が発生しました。亡くなられた方々の御冥福と被害を受けられた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

龍は力強く、知恵もあり、リーダーシップの象徴とされ、辰年は「成功の芽が成長し、姿を整えていく」縁起のよい年とされています。今年も5年後10年後を見据え、「啐啄同時の教育委員会」を目指して、学校の自走を全面的に支援しつつ、攻めの教育改革を一層推進していく所存です。本年もその御理解と御支援、並びに教育委員会の一層の活性化等に向けてよろしくお願い申し上げます。

さて、今回は、いつもと趣向を変えて、年初めに因み、私の好きな詩人、谷川俊太郎さんの「いち」という詩を紹介したいと思います。

いちってね/つまりぼくがね/いちなのさ/ぼくは/せかいで/ひとりきり

いちってね/つまりママがね/いちなのさ/ママは/せかいで/ひとりきり

いちってね/つまりきみもね/いちなのさ/ぼくと/きみとで/2になるよ

いちってね/だけどちきゅうは/ひとつなの/ぼくと/きみとは/てをつなく

いちってね/だからはじめの/かずなのさ/ちいさいようで/おおきいな

子供にも非常にわかりやすい平易な言葉で綴られている詩ではありますが、シンプルだからこそその意味深さがそこには充ちていると思

	<p>います。子供たちは「ナンバーワンにならなくてもいい、もともと特別なオンリーワン」の存在であるとの考えの基、今年も一人一人に応じた個別最適な学びを深化していきたいと思っています。</p> <p>話は変わって、詳細については後程担当から報告がありますが、ロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平投手が、全国の小学校へ3つのジュニア用野球グローブを寄贈するニュースを御存じかと思います。そのグローブが1月4日に戸田市教育委員会にも届きました。昨年末には、大谷選手に続き山本由伸選手もドジャース入りを発表しました。昨今、少子化とともに野球の競技人口も減少を続けていますが、こうしたことを機に、第二の大谷選手や山本選手のようなプロ野球や世界で活躍する選手が生まれることを期待しています。</p> <p>一方、戸田市の教育に目を転じますと、国に先駆けて推進してきたGIGAスクール構想が第2フェーズを迎えるたいへん重要な一年となります。これに並行して、全ての小・中学校のトイレの洋式化やバリアフリー機能を充実させ安心・快適な環境を整備する改修工事の実施、不審者侵入防止対策、児童・生徒用タブレット端末の更新、学校・教師が担う業務に係る三分類に基づく学校の働き方改革の徹底、誰一人取り残されない「戸田型オルタナティブ・プラン」の一層の推進、教育を科学するための教育総合データベース、ダッシュボードの充実及び活用、部活動の地域移行、第三子以降の学校給食費免除の継続、市民大学を中心としたリカレント教育の一層の推進、「第4次子どもの読書活動推進計画」の策定、郷土博物館開館40周年事業の実施など、全国に誇れる各担当の知恵と汗を結集させた先駆的な取組を、学校・地域と連携し「チーム戸田市」で進めてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、ただ今から、令和6年第1回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。</p>

各委員	了承
教育長	それでは、会議録に御署名をお願いします。
各委員	署名
教育長	では、校長プレゼンから始めたいと思います。今回は戸田中学校区のプレゼンです。お願いします。
説明員	【各校長よりプレゼン】
教育長	委員の皆様、いかがでしょうか。
委員	<p>御説明ありがとうございました。今回のこの取組の中で、教師の意識改革を重要視されている印象を持ちました。やはり学校を動かしていくのは教師ですから、その教師の意識を連携させて、1つの学びを形成していくという考え方がすごく良いと思いました。</p> <p>特にその中で、共通の視点を持って、また、言語化をしており、とても良い試みをなさっていると思います。抽象的なことを具体的に、目に見える形で定義していくことで理解が進みますので、言語化はとても大事なことだと思います。</p> <p>そこで1つ質問です。このような共通化を、全校で先生方がやってみようという意識になっていると思いますが、中には面倒だから嫌だという人もいるのではないのでしょうか。そのあたりを教えていただければと思います。</p>
校長	まだ、校長レベルでの話であり、これから少しずつ主幹教諭、それから研究主任に下ろしていく段階ですので、ここからが勝負かと思います。
委員	ありがとうございました。教育委員会もバックアップしますので、大いに活用して、実際にやっていただきたいです。大いに今後に期待していますので、ぜひ試みを実現させてください。

委員	<p>PBL の連続性といいますか、学区の中で統一させていきたいということから始まり、ICT の活用やキャリア的な部分からヒアリングしてのグランドデザイン、小中学校の先生方の相互の共通理解などは、よくわかりました。その上で、3つ質問させてください。</p> <p>1つ目は最初のところで、子供の知的好奇心や学力が、両校ともとても高いと思いますが、学校の努力で高くしたのか、地域的に高かったのかを伺いたいです。</p>
校長	<p>意識が高い御家庭は多いかと思いますが、授業の要素もしっかりあると思います。学校は、子供の知的好奇心に応えられる授業を行っていかねばならないと考えています。期待に応える責任を日々感じています。</p>
教育長	<p>ほかの先生方はいかがでしょうか。</p>
教頭	<p>学校の力だけでなく、私も、地域の、特に保護者のお力や、学校の教職員への期待もとても高いと、日々感じています。</p>
委員	<p>保護者の期待が大きく、学校もかなり努力して現状があると思いますが、やはり、高いなら高く、課題を見つけてさらに学校も努力していただければ幸いです。</p> <p>それから、メンタルの弱い子に関することが書いてありますが、データの比較対象など、何かあるのでしょうか。</p>
校長	<p>おっしゃるとおり比較対象がないので、この地区だけというよりも、時代背景や社会的な部分もあるとは思いますが。一方で、管理職として子供と接していても、先ほど話したようなことはやや感じられる部分です。</p>
委員	<p>2つ目に、生徒指導重点加配員の教師で、戸田第一小学校と戸田南小学校の6年生の算数を教えている方が、戸田翔陽高等学校のいっぽにも関わっているということでしたが、6年生の子供達の様子はいかがでしょうか。子供たちは、その先生について、どう感じているので</p>

	しょうか。
校 長	授業に入ることは多くはありませんが、やはり安心感があるようです。中学校の先生のことがかかるという部分だけで安心感がありますし、直接聞いたわけではありませんが、肯定的に捉えているように見受けられます。
校 長	授業参観をする時間も多いので、最初は緊張したようでしたが、段々と子供も見慣れてきて、距離が縮まったと思います。中学校に行ったらまた会えるのだと感じているのではないかと思います。
委 員	3 つ目に、学校運営協議会からの小中連携や小中一貫教育についての要望や協力は何かあるのでしょうか。
校 長	特に、本校での学校運営協議会からは中学校とのという言葉はあまり出てきていませんが、子供達の学んでいる姿を見て、「中学校に行ったときにこれがきっと役に立つであろう」などの感想を言うくださる方が多いです。中学校に行っても地域の方は期待されていると感じられます。
校 長	本校では、先日コミュニティスクールの会議がありましたが、そこで PBL で取り組んだことのプレゼン発表を代表の 2 組が行いました。大変すばらしい発表だという評価をいただきました。中学校でも、さらにこのことを探究していてもいいのではないかと、という御意見がございました。そのことに関しては、先日戸田中学校の校長に話をしました。まだ決まっているわけではありませんが、今後そのようなところでも連携を図りながら、継続性を持たせる何かが、総合的な学習の時間や他の教科でも、少しでもできていたらいいのではないかと考えています。
教 頭	中学校区は、コミュニティスクールの委員の中に、学校応援コーディネーターもあり、小学校の様子も伺っています。各校からお話があったように、やはり PBL が小学校の方がすばらしいので、中学校の方

	<p>も頑張ってくださいということを伺っています。非常にプレッシャーを感じていますが、そのプレッシャーをしっかりと前向きな方に変え、今年度からスタッフプログラムなどを動かしてまいりました。来年度さらに皆さまに良い報告ができるように実施してまいります。</p>
委員	<p>小中連携や中1ギャップの解消・緩和という話もありまして、その辺で、例えば小6と中1の子供たちが合同での課外活動や授業などをして、触れ合うのもいいと思いますが、そのようなことは今行われているのでしょうか。もし行われていないようであれば、この先、行うお考えはあるのでしょうか。お聞かせいただきたいです。</p>
校長	<p>コロナなどがあり、少し期間が空いてしまったので、改めて考えていかなければいけないと感じています。おそらく以前は、戸田中学校と戸田第一小学校、戸田中学校と戸田南小学校で、行っていたこともたくさんあったのではないかと思いますので、そのようなところを改めて考えていければと思います。</p>
委員	<p>自ら人生を切り拓く生徒と記載がありましたが、やはり一人一人の生徒が人間力、つまり、人としての力をつけるのは大事だというお話だと思います。その意味で、先ほどから取り上げられている特別活動の強化や重視、また変えていくことなどは考えているのでしょうか。</p>
教頭	<p>本当におっしゃるとおりだと思います。今、戸田中学校としては、キャリア教育、特に生き方学習について力を入れていきたいと考えています。そのために、今さまざまな外部指導者とコミュニケーションを図りながら、新たな刺激と言いますか、新しいものにできるだけ触れていければと考えています。直近ですと、2月に金融関係の企業と連携しまして、中3を対象に金融教育を行う予定です。そのような形で、中学校卒業後、社会に出たときに、どうやってお金と上手に付き合っていけるか、普段の授業では学べないような形の内容の学びを特別活動の中で取り上げていければと考えています。</p>
委員	<p>児童生徒の特徴で、メンタルの弱い子が多いと感じるとのことです。</p>

	<p>たが、失敗を恐れて自分の非を認められないのは、自分の子供の家庭学習の状況を見ている、思い当たるところがあります。やはり、今の時代の子供の特徴なのかなと少し感じました。その中で、やはり、グランドデザインのところにある3つの能力、12の能力要素は、社会を生き抜く上でとても重要な力だと思います。これから、資質・能力グランドデザインに取り組んでいかれるということなので、ぜひその部分の育成を期待したいです。</p> <p>質問ですが、PBLの授業で、主体的・対話的で深い学びは、進められていると思いますが、通常の授業の中でも主体的・対話的で深い学びを目指す意識は、教師間で差があるのか、それとも皆さんその意識で取り組まれているのかどうかをお聞かせいただきたいです。</p>
校長	<p>当然意識の差はございますので、そこをやはり管理職としては、しっかり埋めていかなくてはいけないと思っています。取組状況としては、PBLという課題解決型の学習の研修をどの学校も積極的に進めていますので、そのような学び方、学ばせ方は、少しずつ身に付いてきていると思います。私自身は、その学び方を他の教科でも波及させていくビジョンで進めています。どの教科でもチャレンジして、試行錯誤している教師もいますが、現状、全員が同じ士気かとは言えませんので、それはこれからしっかり埋めていかなければならないと感じています。</p>
校長	<p>本校でもやはり、教師の感じ方が個々で違うとは思いますが、一方で、個別最適な学びや協働的な学びという言葉について、もっと自分は深く知りたいと思っていて、子供が楽しく授業をする、一生懸命自分で学び方を学びながら勉強していくにはどうしたらいいかを考えたいと、研究をしている教師も多くいます。横のつながりで成長できるようになってほしいと考えています。</p>
教頭	<p>個々の教師間で意識の差がないわけではありませんので、校内研修でしっかりしていきたいと考えています。本校の研修は、基本的には対話型のスタイルで進めておりまして、対話のおもしろさや、対話を</p>

	<p>とおして考えを深めていくスタイルを教師自身が体験しています。体験して、よさ・おもしろさをしっかり自分たちが身につけ、それを子供たちの学びに結びつけていければ、我々自身の学びが子供たちの学びにつながるように進めていきたいと考えています。</p>
<p>教育長</p>	<p>これは、戸田中学校区だけではなく、全ての学校に向けていつも話をしていることですが、小中一貫教育は、単なる行事や生徒指導面だけではなく、学びでつないでいくということも極めて大切です。系統性の意識化という言葉がありましたが、ここも単なる意識だけではなく、実際に結びついてもらわなくてはなりません。先ほど委員からもありましたが、主体的・対話的で深い学びの「深い学び」の部分について、例えば、小学校の先生は中学校の教材を常に意識して、今自分が教えていることがどのように発展させられるのか、または中学校の教師であれば小学校でどこまで学んできているのかを把握した上で、授業を行う必要があります。そうでないと、子供が足踏みさせられたり、反対に当然わかっているものと認識して先に行ってしまったりするなど、きめ細かな指導はできません。だからこそ、そういった面で、いかに系統性をしっかりと教師間で学んで接続していくかが重要です。連携というと、その行事やイベント的なつながりが多いと思いますが、もっと学びを深化・充実させることに注力してほしいと思います。</p> <p>次に、相談室の話で、オルタナティブ・プランの視点からも重要だと思っているのが、さわやか相談室と、ぱれっとルームと、高校にある「いっぽ」をつないでいく取組です。それぞれの学校の先生から見ると違う組織ですが、1人の子供の視点から見ると完全に連続しているわけです。そこをいかにうまくお互いつないでいくかについては、戸田中学校での今の取組が他の学校のモデルになるようにこだわりを持ってやってもらうといいと感じます。</p> <p>最後に、教育総合データベースの話ですが、ここも非常に重要で、せっかくダッシュボードを作ったわけですから、このダッシュボード</p>

	<p>をいかに、小中間で連携しながらうまく使っていくかが、今後重要になります。このあたりも積極的にそれぞれの学校で意図的に使っただけ、ダッシュボードを活用した小中の連携についても、ぜひ校長会、教頭会等のピアレビューの中で触れていっていただけるとありがたいです。よろしくお願いします。</p>
教 育 長	<p>続きまして、「教育委員提案」について御報告いたします。</p> <p>仙波委員、浜田委員から御提案のありました「教育委員提案 戸田市のICT教育の現状について 」を事務局より説明願います。</p>
説 明 員	<p>前回に引き続き、複数の委員から御提案のありました ICT 教育の現状について報告いたします。本日はそのうちの仙波委員・浜田委員御提案の一人一台端末の活用やキャリアステージに応じた研修、そして市民への啓発を中心に報告します。</p> <p>2 ページを御覧ください。本市では、国の GIGA スクール構想に先駆けて ICT 活用を進めており、その当時から教育長の将来構想は「一人一台」ではなく「一人一アカウント」でした。また、教具的活用から文具的活用への転換、Technology First ではなく Pedagogy First、スマートで軽い授業にならないように、若手ではなくベテランから使わせる、といったことをこれまで貫いております。3 ページ、戸田市は取組の第 2 フェーズにあるものと認識をしており、柱となる取組として、教育総合データベースを中心とした「教育データの利活用」、不登校支援をはじめ誰一人取り残されない教育へのトライアル、モラル教育から一歩進んで責任ある利用者となるためのデジタル・シチズンシップ教育やメディア・リテラシーの充実などに取り組んでいる状況です。</p> <p>4 ページです。ICT 活用が加速度的に進み授業デザインの変革が起こっている一方、委員御指摘のとおり、教師間での差がまだまだあるのが現状です。そのため、好事例の横展開や ICT が苦手な教師へのサポートが必要であると考えています。</p>

5 ページを御覧ください。観点の1つ目が仙波委員御提案の「研修の実施状況」についてです。前提として、令和5年度は、ICTやPBLが各校において推進されている今こそ、SEEPの「S」、Subjectを深化させ、PBLとともに子供たちの学びを充実させていく必要があると考え、教科の見方・考え方を働かせる視点の強化のため、教師間の同僚性を高めつつ、研修に取り組んでいます。具体的な「教科教育深化プラン」の柱についてはここでは割愛をいたします。そして、子供たちの学びと教師の学びは「相似形」と捉え、教師にも「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っております。当然、ここに記載された全ての研修でICTをマストアイテムとして活用しております。

具体例を挙げますと、6 ページ、市教委主催で夏に行った「教科等指導法研修」や「専門研修」では指導主事が意図的に端末の活用を計画し、対面やオンラインと様々な形態がありましたが、ICTを活用し「考えの可視化」や「考えの共有による対話」の活性化を図っております。

7 ページ、本市で全児童生徒が基盤として使っている「Google Workspace」についても市内全小・中学校から計32名の教師が参加し研修を行っています。本市の研修は、指導主事が行うものだけでなく、この研修のように産官学連携の中で、企業や専門家に協力をいただき、実施していることにあります。このような研修をとおして、受講した先生方は実践的に授業で使うイメージをもったり、どのような場面で使用すると効果的であるのか、理解・習得したりしています。ICTが不得手な教師にも効果的な研修となったことが、受講者の感想からお分かりになると思います。

8 ページです。また、本年夏にそれまで戸田東小・中学校に設置されていた電子黒板を市内全校、全教室に導入するに当たって、先行導入されている学校に各校から推進担当者を集めて授業研究会を行い、教師の腹落ちや各校での研修が進むよう、手立てを講じております。

9 ページは、電子黒板の使用について、ハンズオン、いわゆる実際に使って研修を深める手法で、授業に生かせる効果的な活用について研修を行った様子で、まさに「Just Do It」、とにかくやってみるといふ精神を体現したものです。

これらに加え、10 ページ、各校では夏季休業中に電子黒板の活用研修を実施しています。その際も、産官学連携で端末管理や授業支援を行っている業者に依頼し、効果的な活用を模索したり、その後に先生方が実際に使い倒す機会をとったりしております。

その後も、11 ページ、夏季休業明けの運用状況のフォローアップのため、標記委員会を開催し、効果的な活用方法はもちろん、困りごとなどを各校の推進者間で共有し、その解決のための情報共有を行っています。その情報を担当者は学校で展開し、教職員に共有されるという流れで、トップダウンではなく横での知の共有も図っています。

12 ページ、いま御説明した以外にも、各校では ICT スキル向上を目的とした研修を設定し、主体的に活用のノウハウを伝達しています。いわば、戸田の学校文化として根付いてきているといってもよいと思っています。

あわせて、13 ページ、我々指導主事も学校訪問などの機会を捉え、個別具体的に ICT 活用の改善方法について、教科の見方・考え方を踏まえつつ指導・助言を行っております。先日仙波委員からも御指摘がありました。このような研修全体を通してみますと、計画的な研修と教職員の主体性が発揮され、「個別最適な研修」であり、「非同期の研修」が成立しているのではないかと捉えております。

14 ページからは、浜田委員から御提案の、保護者や市民への ICT 教育の必然性の啓発についてです。これについては、一朝一夕に伝わるものではないと考えており、様々な方法で保護者や市民へ発信を行っております。

まず、フェイスブックを活用した発信です。タイムリーにそして、

画像と言葉を組み合わせることによって学校や市教委の意図が発信できるものと考えています。15 ページ、本日校長プレゼンでもあった戸田第一小学校では「子供の学びを語る会」として、保護者が模擬授業を体験したり、教師と一緒に協働したりするなど、保護者とともに考え、意見を交わす場を設定しています。いわば保護者にも体験を通じて「腹落ち」を図る機会となっております。

16 ページは、御案内のとおりかと思いますが、各校ホームページで校長が発信したり、学校だよりでの啓発や懇談会等で説明したりするなど、学校主体での地道な発信も行っております。

17 ページは note の記事です。こちらは昨年度から始め、担当指導主事が ICT の必要性やここに至るまでの市教委としてのサポートについて詳しく綴っております。「戸田市教育委員会」「note」で検索いただければ出てきますので御覧いただけますと幸いです。

18 ページは広報とだでの発信です。今月号で、前回の定例で御説明したホワイトボードと電子黒板機能付プロジェクタについて、1 人 1 台端末にも絡めてその具体的なメリットを市民にも分かりやすく発信しております。

19 ページ、おわりに、ということですが、現在、戸田市は ICT 活用に関して日本各地だけでなく海外からも視察が相次ぐなど大変注目されている状況です。例えば、国や県の調査でも戸田市の ICT 活用が進んでいることがデータ上見えてきております。これまでの説明とも合わせ、ICT の活用により学習面だけでなく校務の DX 化にもつながっています。しかしながら、学校間格差や学校内格差も生じている現状もありますので、冒頭申し上げたように、子供たちの学び同様、教師の学びを深め、一斉に研修ということは限界もありますので、学校や先生方が自走し、個別最適で協働的な、また、一斉だけでなく非同期な研修が進むよう、努めてまいります。

説明は以上です。

教育長	何か御質問等がありましたら伺います。
委員	<p>戸田市の ICT の進化の実情のようなお話をしていただきまして、ありがとうございます。お話の中で、学校文化として根付くというキーワードがとても私に響きました。ICT の利活用を日常化していく、文化が根付くまでには長い時間がかかります。そのために教師の研修をして保護者も招いて、子供たちはもちろん実践してという形で、本当の意味での学校の ICT の文化が根付くための努力を着実になさっていることをとても良く感じました。</p> <p>1 つだけ、今お話を伺っていて、私たちは理解できますが、まだまだ市民の方々の中には、小学校、中学校は難しいことをやっていると思う方がいるかもしれません。ここをもう少しわかりやすく、平易な説明をする努力をするといいと思います。今日の説明がいけないというわけではなく、段階に応じてレベルを合わせていくなど、それが学校文化の中に根付く大きな力ではないかと、とても強く感じました。今行ってらっしゃることについても、心から頑張っているとエールを送ります。私からは以上です。</p>
委員	<p>研修については、本当にただ先生方に使え使えといっても全くわからない人はわからないと思うので、手厚いサポート・研修をされていることがわかり、とても安心しました。保護者の啓発についての、子供の学びを語る会の開催は、戸田第一小学校が企画して行ったものなのでしょうか。</p>
事務局	これは学校側が企画して行ったものです。
委員	<p>ぜひ、他の学校でもやっていただきたいです。私は教育委員として活動しているため、啓発についても目につきますが、やはりある程度知っていないと情報が入ってこないと思います。おそらく、他の保護者の人達は目に入ってこないです。字で読んだとしても、ふわっと何となくこんなことをやっているのだろうなというのはわかるかもしれませんが、実際のところはわからないということが大きいと思いま</p>

	<p>す。実際に触れてみて、自分が体験してみて、「ああそういうことなのだ」という気付きがあると、より一層子供と一緒に理解が増え、家庭での話も増えると思いますので、ぜひこの取組を進めてほしいです。</p> <p>また、正直な意見を言わせていただくと、やはり長い文章は読まないです。学校だよりも担当の先生が一生懸命書いていただいているので読んでいますが、やはり長いと途中でいやになってしまう人もいますし、PBL などの難しい言葉が並んでいると、なかなか理解が進まないのもあると思います。伝えたいことがもっとあるのはわかりますが、もっと端的に短くパッと目につくような伝え方の工夫、研究も必要なのかなと思いました。今回は広報で載せていただいている、わかりやすい説明だと思いましたが、広報はどれくらいの人が見ているのかということもあります。また、広報自体は読者がいたとしても、やはり興味のあるものしか見ていかないの、できるかぎり目につく工夫が必要だと思いました。</p> <p>教育委員会 note は、私も知らなかったのですが、どれくらいの人知っているのだろうかと思い、せっかく発信しているのにその存在すら知らないとなったら本当にもったいないことだと思いますので、もっとその存在をアピールしていってもらえたらと思います。</p>
事務局	<p>先ほどありましたように、発信のしかたを工夫して伝わるようにしていきたいと思います。教育長も申しておりますが、「伝える」と「伝わる」は違うと思いますので、しっかり保護者・市民に伝わるように工夫していきます。また、教育委員会 note については、学校からの発信もありますが、視察の折にもいろいろなところに発信させていただいて、だんだん読者が増えてきていると思います。昨年度の終わりがごろから始めて、今年度実働という状態ですので、まだまだ広報が足りないところかと思っています。しっかり発信もしていきたいと思えます。</p>
教育長	<p>学校だよりについては、事務局から、今回このような御指摘があっ</p>

	<p>たことを校長会議などで伝えてください。できるだけ簡潔にというと、せめて500字か600字程度に納めれば、読むとすると2分くらいで読めると思います。</p>
事務局	<p>読んでいただくという視点をもう一度見直してもらうことなどを校長に伝えたいと思います。貴重なお話をありがとうございます。</p>
教育長	<p>非常に大事な御指摘だと思います。noteは、基本的には誰でも読めますので、できれば次回の教育委員会定例会の時に少し触れてください。ぜひ見ていただきたいです。事務局から補足はありますか。</p>
事務局	<p>1点目の子供の学びを語る会に関しては、同じ形ではありませんが、各学校でそれぞれの方法で実施しています。例えば、保護者の授業公開が各学校にもありますが、昨日学校訪問していただいた戸田第二小学校では、昨年6月に全学級でデジタル・シチズンシップの授業を行って、保護者の皆様にも参加していただく機会を設けています。直接端末を触っていただく場を設けるのは中々難しいのですが、そのような形はできるかと思います。校長会でもPRして広まっていくと思いますので、我々としても好事例を収集して発信していきたいと思います。</p> <p>また、教育委員会のnoteについては、当然市民の方だけを対象にしているものではないので、より幅広く戸田市の政策を発信しているものにはなりますが、市民の方々に対してさまざまな形で情報発信をしていく必要はあると思います。noteだけではなく、学校だよりや広報戸田市、また、例えば「TODAのいいTOCO」などのいろいろなチャンネルを活用しつつ、かつ必要な人に届くように、引き続き頑張っていきたいと思います。</p>
教育長	<p>キーワードはチャンネルの複合化です。1つの手段だけで伝わるものではないということです。SNSをどんどんやればよいというものではない、紙に拘るものでもない、様々なチャンネルを複合化して伝わるように伝えていく必要があると思います。</p>

	<p>また、難しいことを優しく、優しいことを深く、深いことをおもしろく伝えていくことが重要です。そのあたりはまだまだ改善する余地がたくさんあると常々思っています。貴重な御意見ありがとうございました。</p>
委員	<p>教育委員会が、ICT 教育の面で学校に並走していることがよくわかりました。デジタル・シチズンシップやメディア・リテラシーについては、いろいろな事件が起こっていますので、ぜひそのようなことが起こらないように、今年から完全実施ということですが、よろしくお願ひします。</p> <p>教師間の同僚性を高めつつ、共通的な基盤である授業づくりの視点については、個人プレーの多い職場で組織力を強化するために、全ての教師に対して実践できる力を育成する場面をたくさん作っていただいていて、着実にそのような教師が増えていることがよくわかりました。それを学校全体に広めていってより授業に活用できる人を増やしていってほしいと思います。</p>
委員	<p>学校だよりについては、字数を減らすのでしたら、図や写真を載せると色があり、目に留まる方もいると思います。</p>
教育長	<p>それでは以上を持ちまして教育委員提案を終了いたします。</p> <p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして4件の報告がございます。</p> <p>戸田市立小・中学校令和5年度卒業式及び令和6年度入学式等の日程及び参列者について</p> <p>大谷選手によるグローブの寄贈について</p> <p>戸田市民大学公開講座の開催について</p> <p>その他</p> <p>資料 No.2 に基づいて、各所属長より報告いたします。なお、御質問につきましては、全ての報告が終了したのちに伺います。</p>

<p>事務局</p>	<p>報告事項 戸田市立小・中学校令和5年度卒業式及び令和6年度入学式等の日程及び参列者について 報告させていただきます。</p> <p>1 ページを御覧ください。戸田市立小・中学校 令和5年度卒業式・令和6年度入学式の日程及び参列者について説明いたします。</p> <p>まず、令和5年度の卒業式は、小学校が3月22日の金曜日、中学校が3月15日金曜日に行われます。</p> <p>また、令和6年度入学式は、小学校が4月9日の火曜日、中学校が4月8日月曜日に行われます。</p> <p>学校ごとに、開式の時刻が異なっております。また、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、今年度は2部制での実施校はない見込みでありますことを申し添えます。</p> <p>卒業式及び入学式当日は、教育委員の皆様方に御臨席いただいております。それ以外の学校につきましては、教育委員会事務局の幹部職員が参列する予定でございます。</p> <p>御臨席いただく学校の案につきましては、2 ページの資料のとおりでございます。</p> <p>教育委員の皆様で御都合のつかない日がございましたら、後ほど、お伝えいただければと思います。</p> <p>また、臨席される方には、卒業式当日の挨拶文及び、動き方についてまとめたものを、2月定例会の日にお渡しさせていただく予定でございますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>報告事項 大谷選手によるグローブの寄贈について 報告させていただきます。</p> <p>ロサンゼルス・ドジャースに移籍した大谷翔平選手からグローブが寄贈されたことについてです。3 ページの写真の様に、各小学校に右利き用2個、左利き用1個の計3個のグローブが寄贈されました。年</p>

	<p>明け1月4日に市教委に届き、5日に学校へ送付、週明けの1/9始業式に各校でお披露目をしております。各校では、児童がグローブ、そして野球に触れる機会を設けています。4ページは送付状になります。最後の「野球しようぜ」がとても印象的です。</p>
事務局	<p>報告事項 戸田市民大学公開講座の開催について 報告させていただきます。</p> <p>3月2日(土) 午後2時10分から、文化会館において、「お天気のヒミツ、全部教えます！」と題し、株式会社ウェザーマップ会長であり、気象予報士としてテレビでも活躍中の森田正光様より御講演をいただきます。</p> <p>気象予報士の仕事や天気の仕組みなどについて講演いただく予定です。</p> <p>今回も、会場受講に加えて、オンデマンド配信を実施いたします。</p> <p>また、講座の開始前には、令和5年度戸田市民大学閉講式を行い、市民大学の学長である市長から、今年度の修了者9名に対し、修了証を授与する予定です。</p>
教育長	次に その他ですが、事務局より何かございますか。
事務局	特になし
教育長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教育長	報告事項の 大谷選手によるグローブの寄贈について 何か子供たちからの反応はきていますか。
事務局	かなり喜んでいるようです。
教育長	それでは、報告 戸田市民大学公開講座の開催について 森田さんの話はおもしろいので、是非お時間がありましたら、御参

	加ください。
教育長	それでは次に、次第 7 その他の「次回の教育委員会の日程（案）」について、事務局より説明願います。
事務局	次回、教育委員会定例会の日程ですが、2月15日（木）午前9時30分からの開催について、お伺いたします。
教育長	次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおりでよろしいでしょうか。
各委員	了承
教育長	それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局（案）のとおり決定いたします。次にその他ですが、事務局から何かございますか。
事務局	特になし
教育長	委員の皆様から次回以降の教育委員提案のテーマについて何かございますか。
委員	本日も戸田市のICTの教育、整備の進捗状況をお話いただきましたが、GIGAスクールで子供達に1人1台端末を与えるという考え方は着実に進んでいると思います。次は、先生方に対して1人1台がベストかと思っていますが、万が一、そこまでは難しいということであれば、プラットフォームを共有化・共通化する試みがあってもいいのかなと思います。プラットフォームを共有化する時間があれば、1台与えた方が早いのではという気はしますが、そこで情報共有ができて先生方がお互いの議論ができるとすごく良いと思いますので、端末の一元化といえますか、どのような形で教師のICT環境を整備するかについて、今後の見通しというか考え方を教えていただければありがたいです。
教育長	これは、ゼロトラストという考え方にに基づき、これまでセキュリティの関係で校務系と指導系で分けていたネットワークを一元化するという考え方で整備していますので、これを報告する形でもよろしい

	でしょうか。
委員	はい、結構です。
教育長	では、続きましていかがでしょうか。
委員	<p>1点目が、令和5年4月から、教職員の高度化に関するモデル開発事業ということで、合理化・効率化に資する研修の高度化に向けた取組を各市教委で進めていると思いますので、進捗状況を教えていただきたいです。</p> <p>2点目は、能登半島地震が発生したこともあり提案するものです。新曽中学校区では学校運営協議会が地域と一緒に防災教育を推進している状況で、小中学校で合同の訓練をしたという発表もありますが、例えば社会では消防署や消防施設、理科では自然災害の発生のメカニズム、保健体育では安全指導など、実際に行っている防災教育のカリキュラムについて教えていただきたいです。</p>
教育長	研修の高度化については、文部科学省の補助事業も受けているので、その進捗状況と防災教育ということでお願いいたします。
事務局	年度が明けると、かなりまとまった形になりますので4月、5月ごろご報告申し上げます。
委員	学校の施設計画について、いつも定例会等でも予算や完成予定図などを見せていただいています。学校は学校でどういう形で今後計画が進んでいくかを示していただくと、先が見えてくるかと思えます。どのような計画で先々まで進んでいくのかと疑問を感じましたのでこれをお示しいただきたいです。
教育長	ここしばらく報告がなかったと思いますので、改めてできるだけ早いうちに今後の計画について報告をお願いします。
委員	昨年度から不登校対策として「戸田型オルタナティブ・プラン」で取り組まれていると思いますが、その後の進捗状況や新たに始めたこ

	と、また課題の指摘などもありましたら、教えていただきたいです。
教育長	続まして、「議案第1号から議案第4号」を議題といたします。 秘密会とすることに決定しておりますので、説明員で議案に関する職員以外は退席願います。
	【議案第1号から議案第4号を議決して閉会】

	以上のとおり会議の経過及び結果を記し、相違ないことを証するため署名する。
	令和6年2月15日
	教 育 長
	教育長職務代理者
	委 員
	委 員
	委 員
	書 記